

症例検討 1

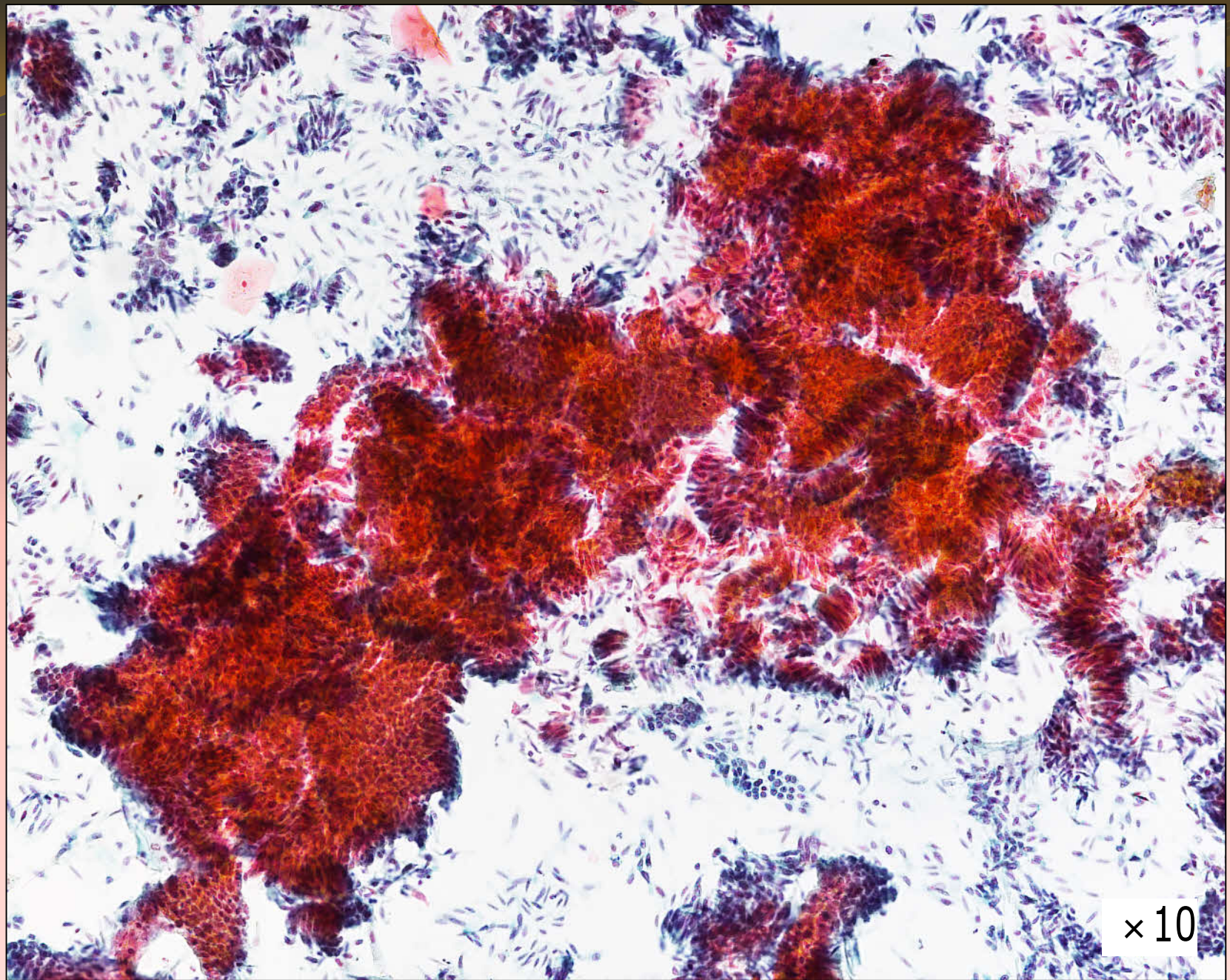
子宮腔部・頸部

症例検討 1

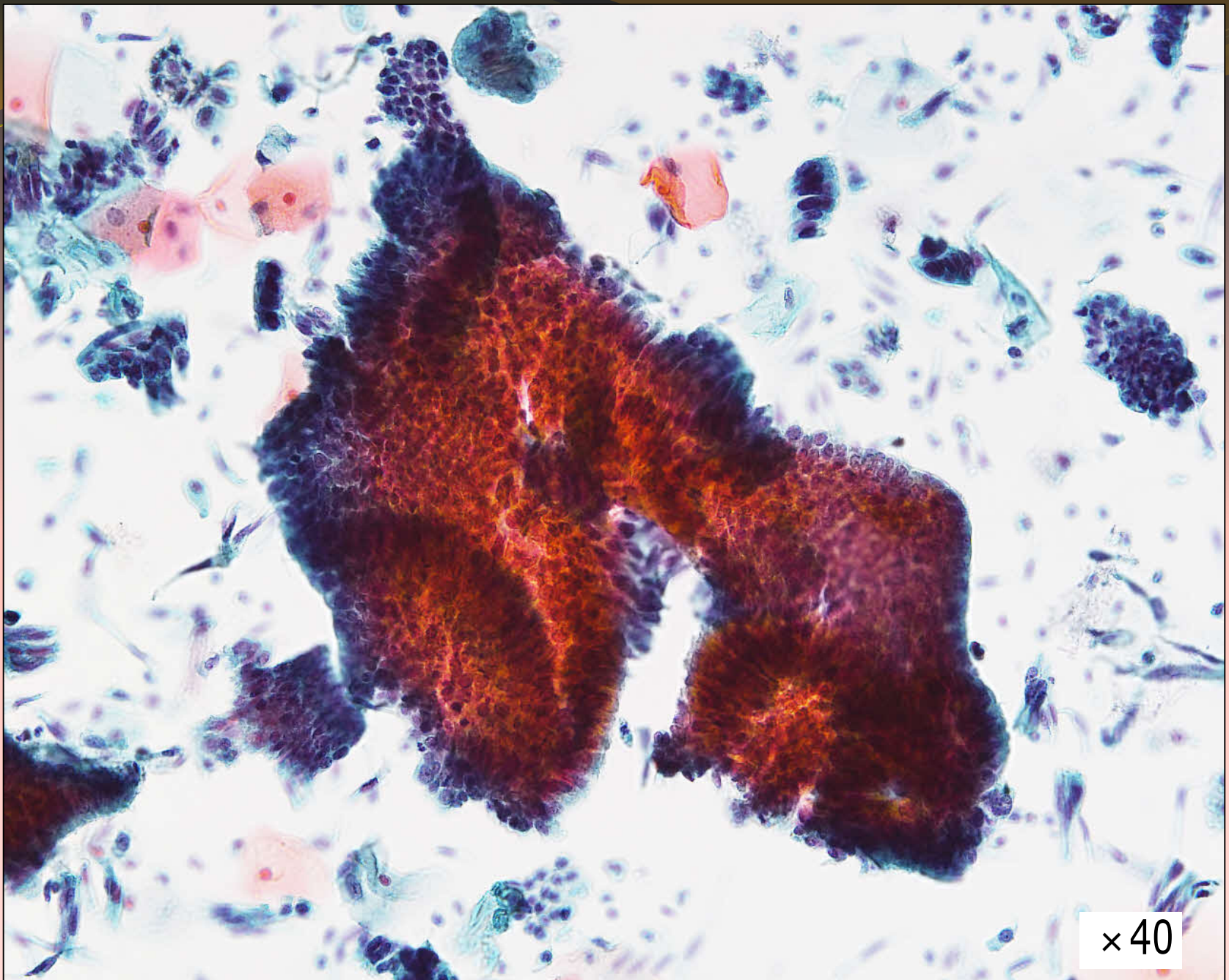
- 30代
- 採取部位：子宮腔部・頸部
- 採取器具：Cervex7[®]ラシCOMBI
- SurePath法
- 臨床所見

検診にて子宮頸部細胞診異常を指摘され当院紹介受診

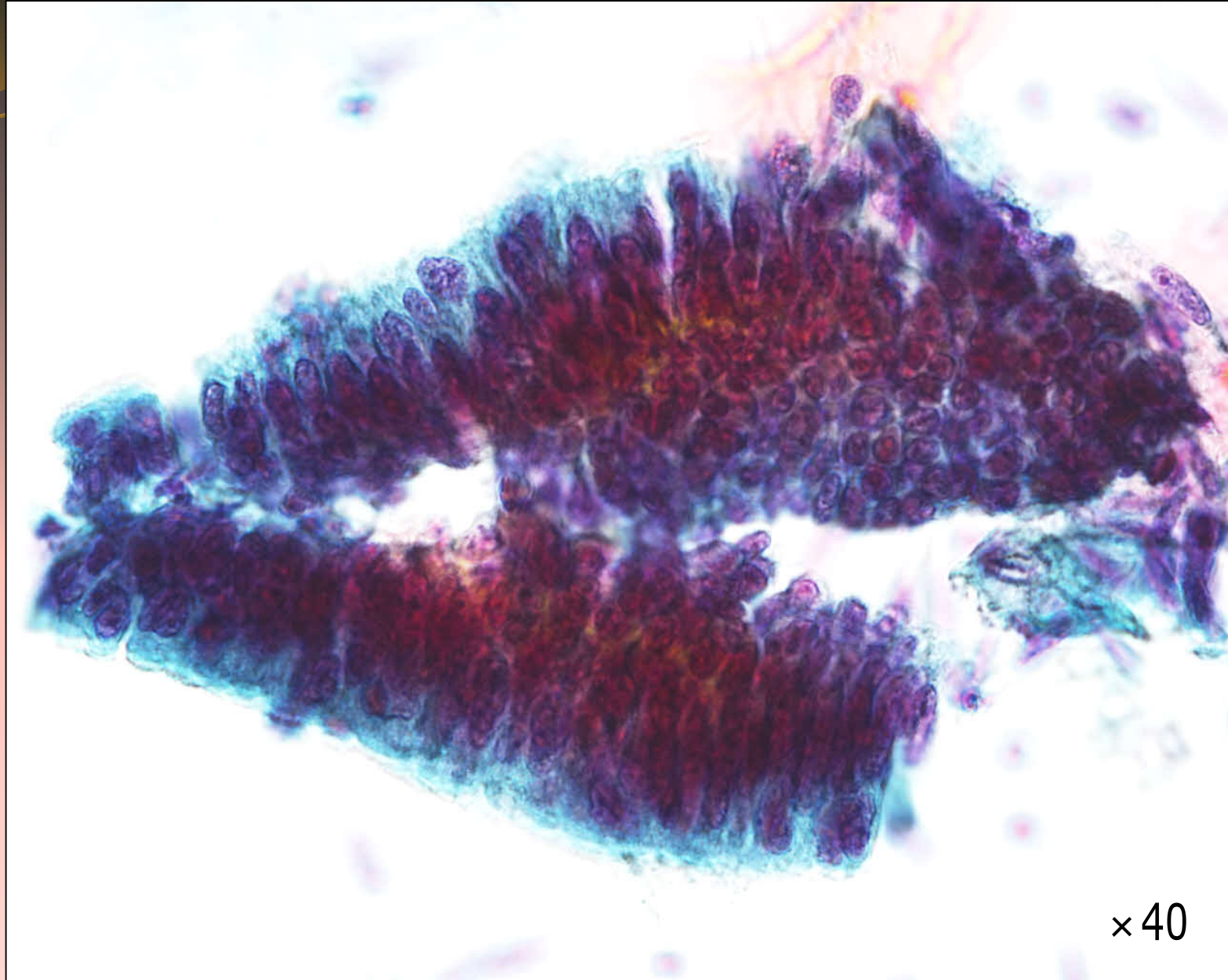
Colposcopyでは子宮頸部に乳頭状隆起性病変あり



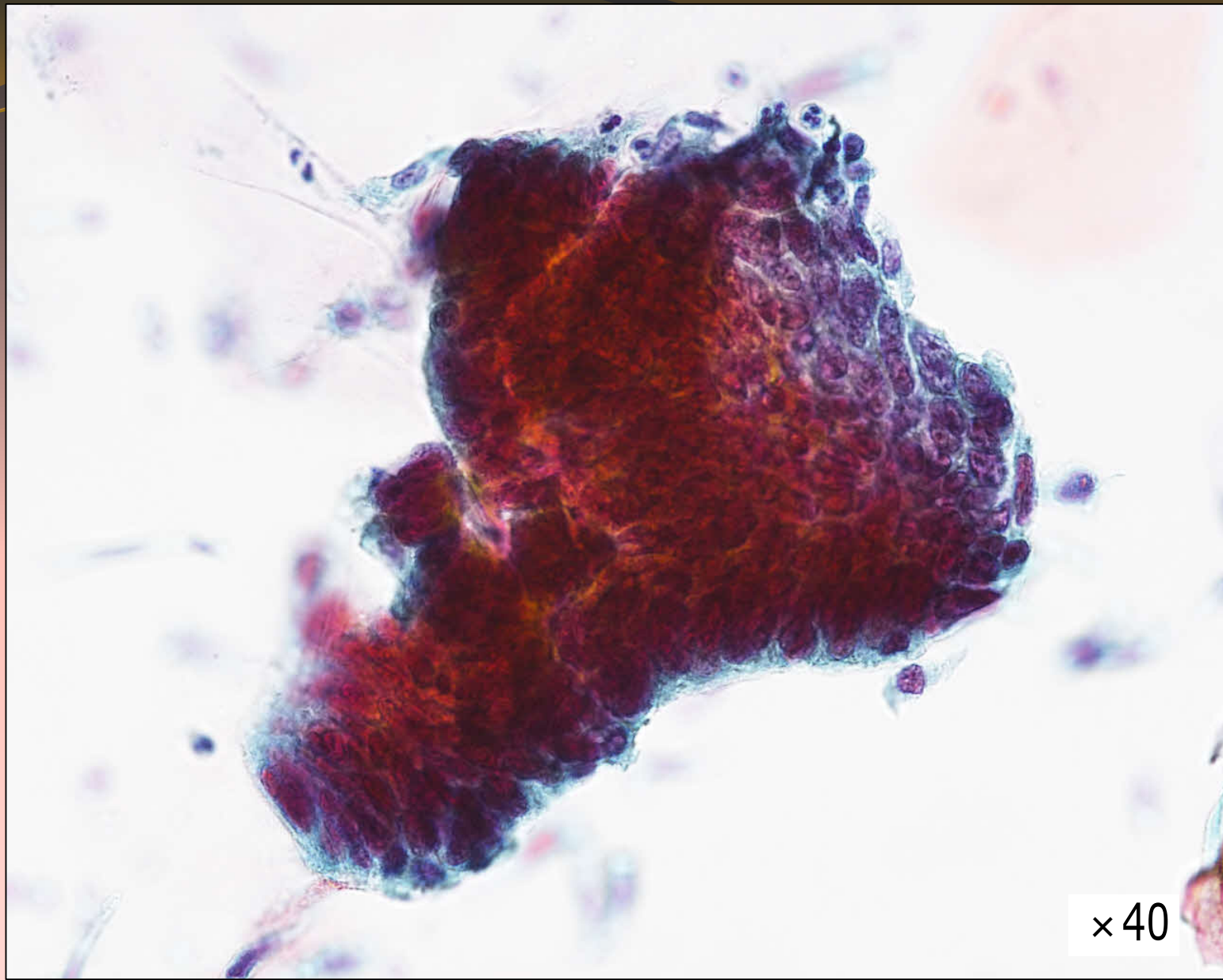
腺細胞の増生が窺え、腺管は融合し、大型集塊で見られる。



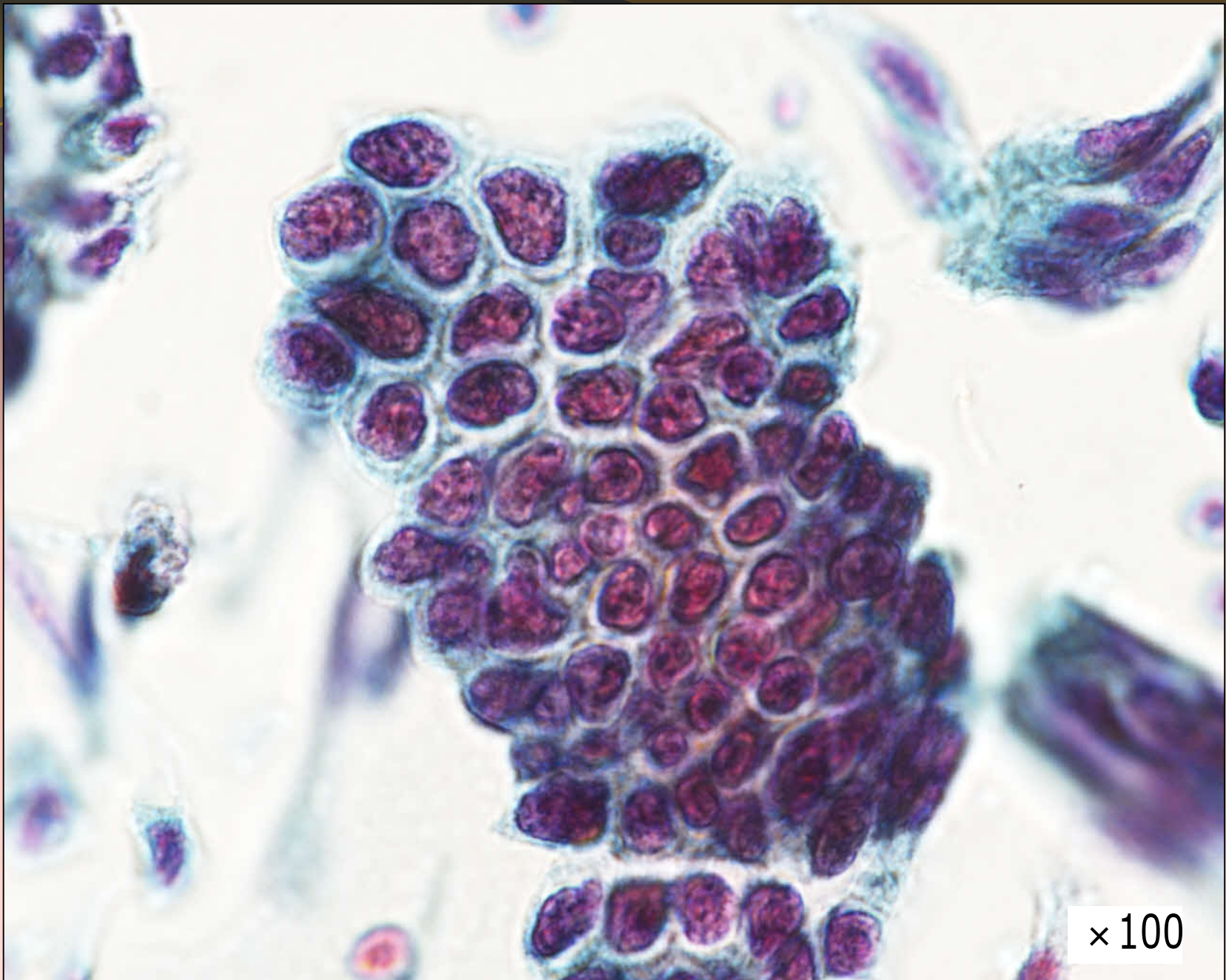
腺管辺縁の核は柵状に配列し、重責性が強い。



重層する長楕円形核には細顆粒状クロマチンが増量し、
腫大した好酸性核小体も一部で見られる。



腺系（集塊左側）と扁平上皮系（集塊右側）と思われる細胞からなる集塊

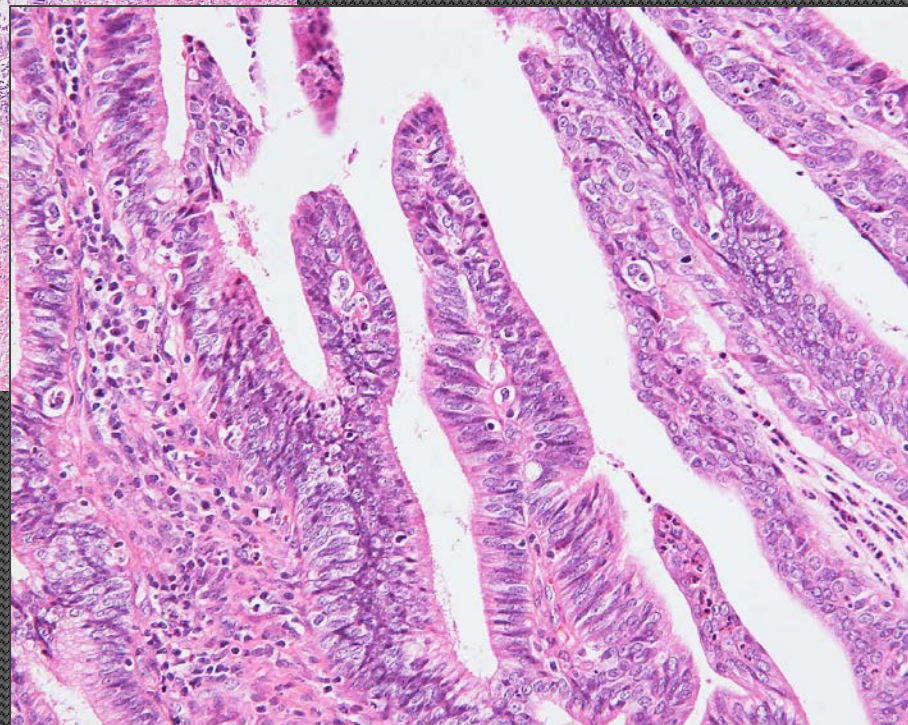
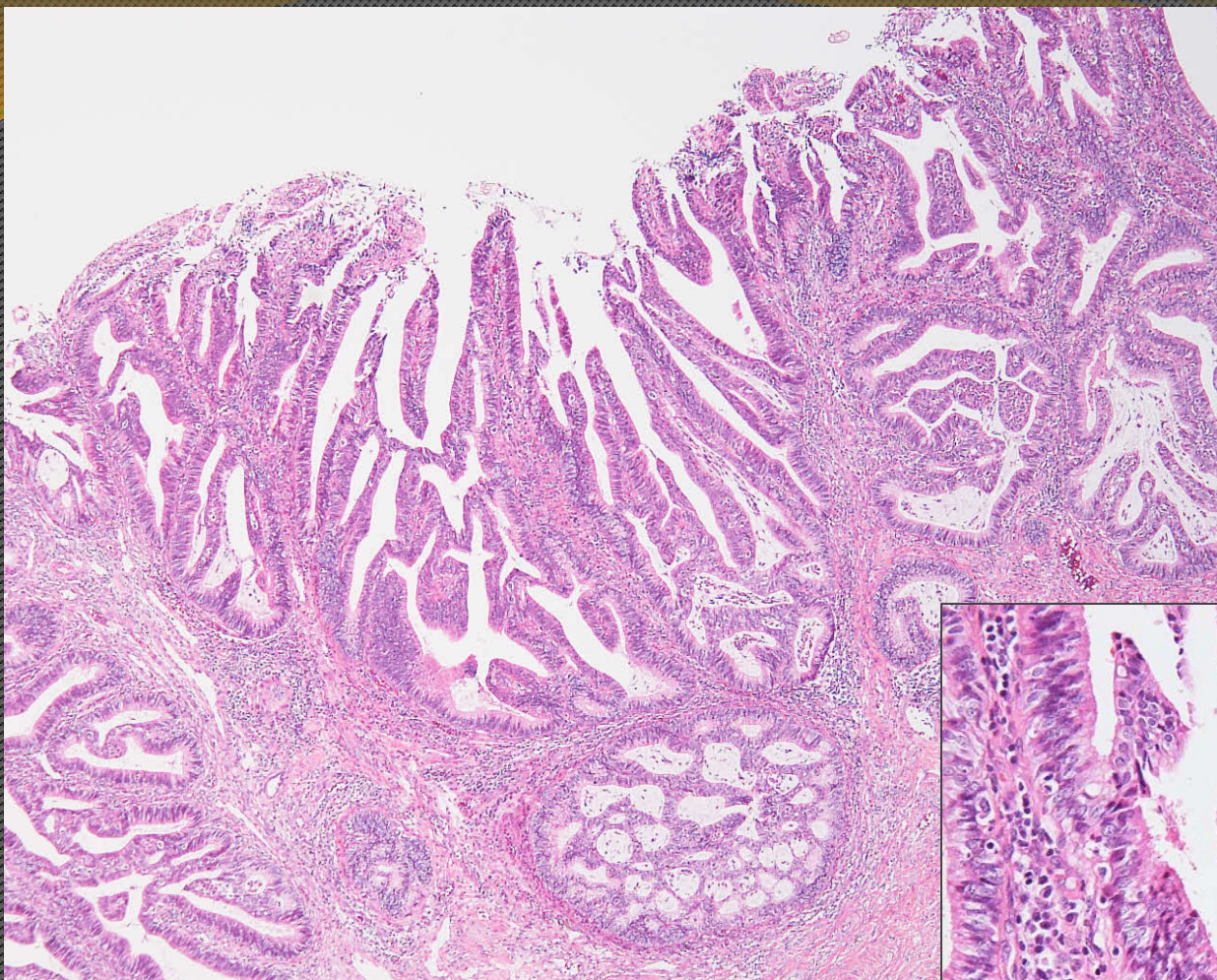


扁平上皮系細胞と考えられた細胞だが、腺系細胞集塊のOverviewとも思われる。

組織診断（円錐切除）

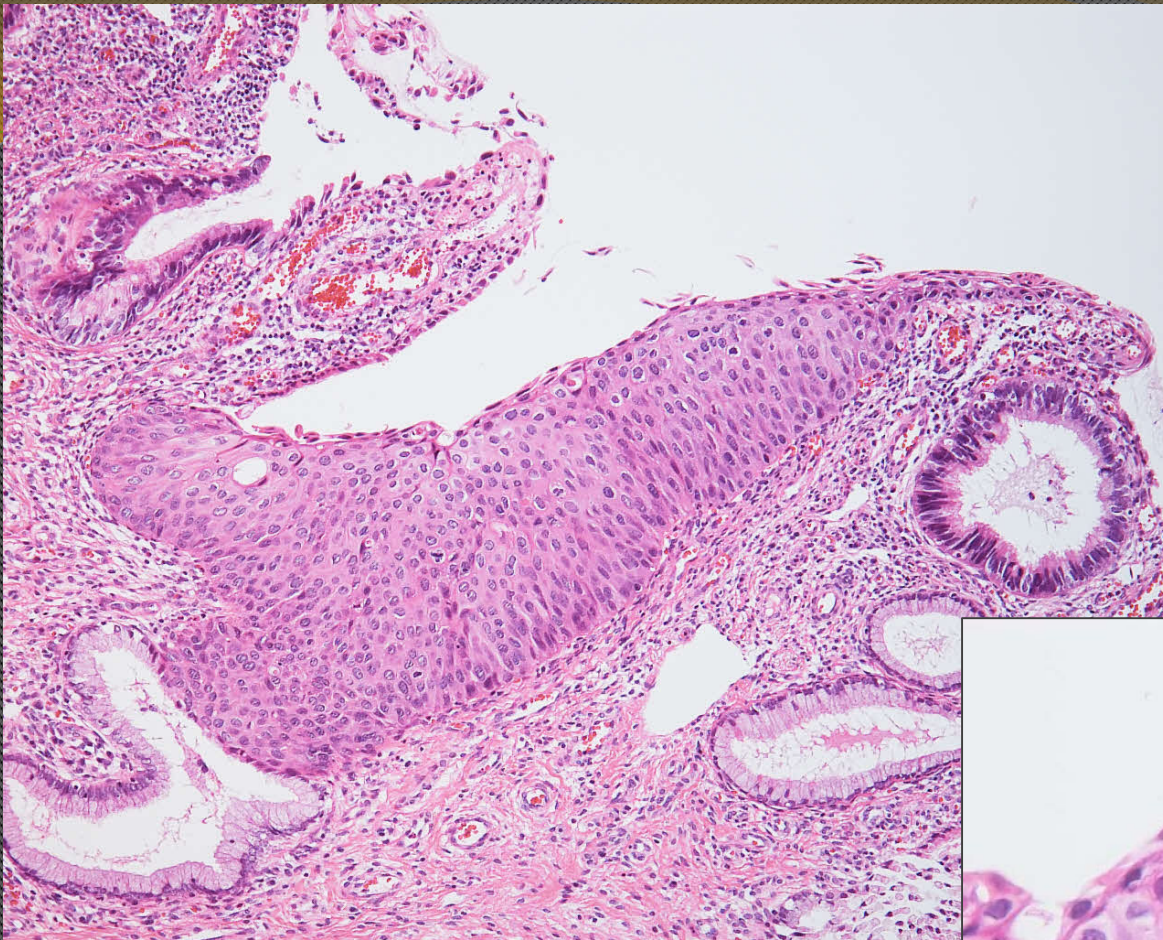
- Endometrioid adenocarcinoma in site, uterine cervix
- Severe dysplasia, uterine cervix

上皮内腺癌部

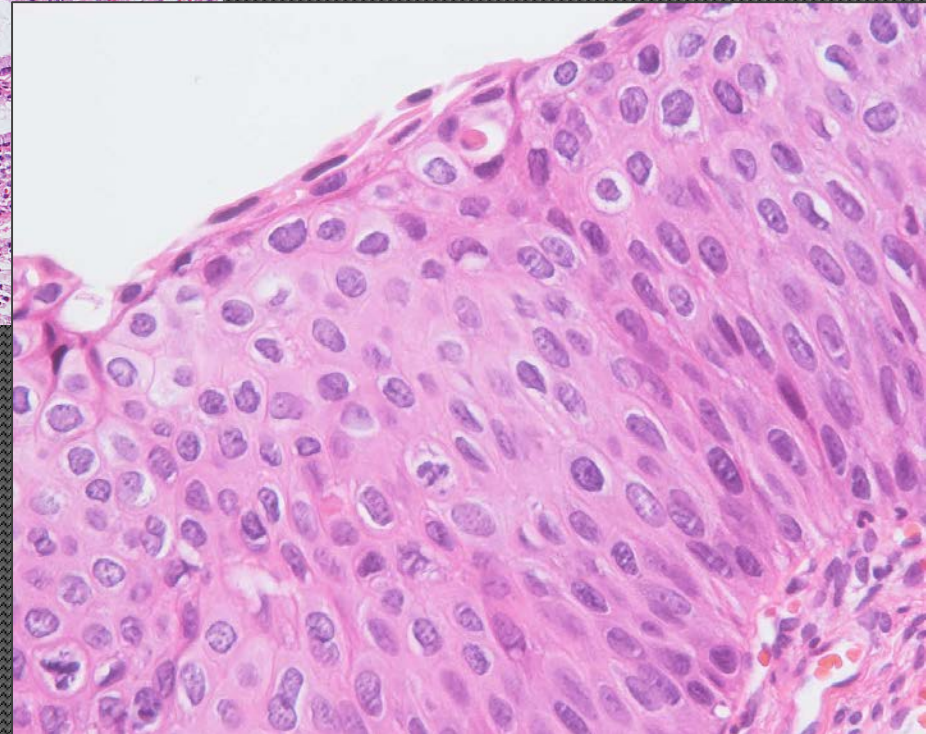


上皮内において、絨毛状・篩状に増殖
橢円形の偏在核が重積し基底側に配列
明らかな浸潤所見はなく、
類内膜型の上皮内腺癌

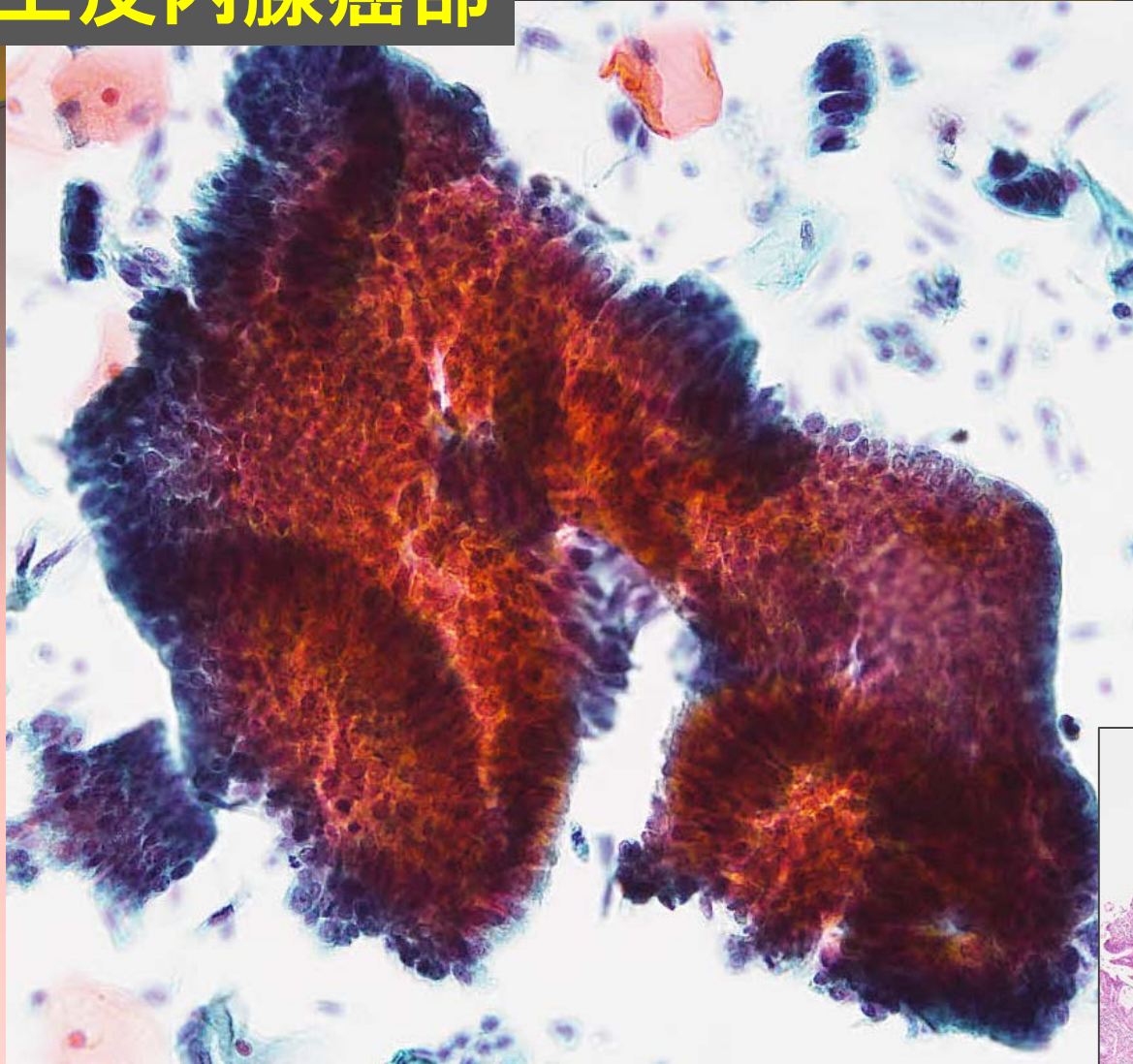
高度異形成部



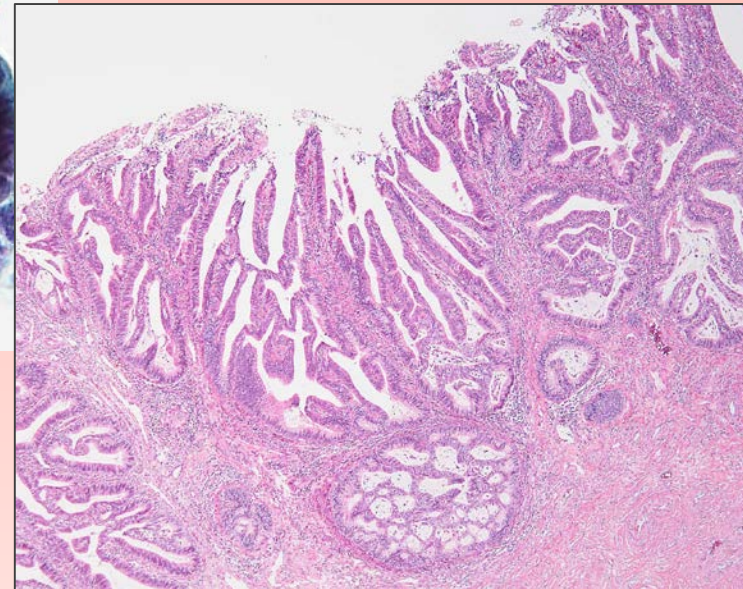
一部に層状の分化傾向が保たれた異型扁平上皮の増殖が見られる。
浸潤所見はなく、高度異形成の組織像



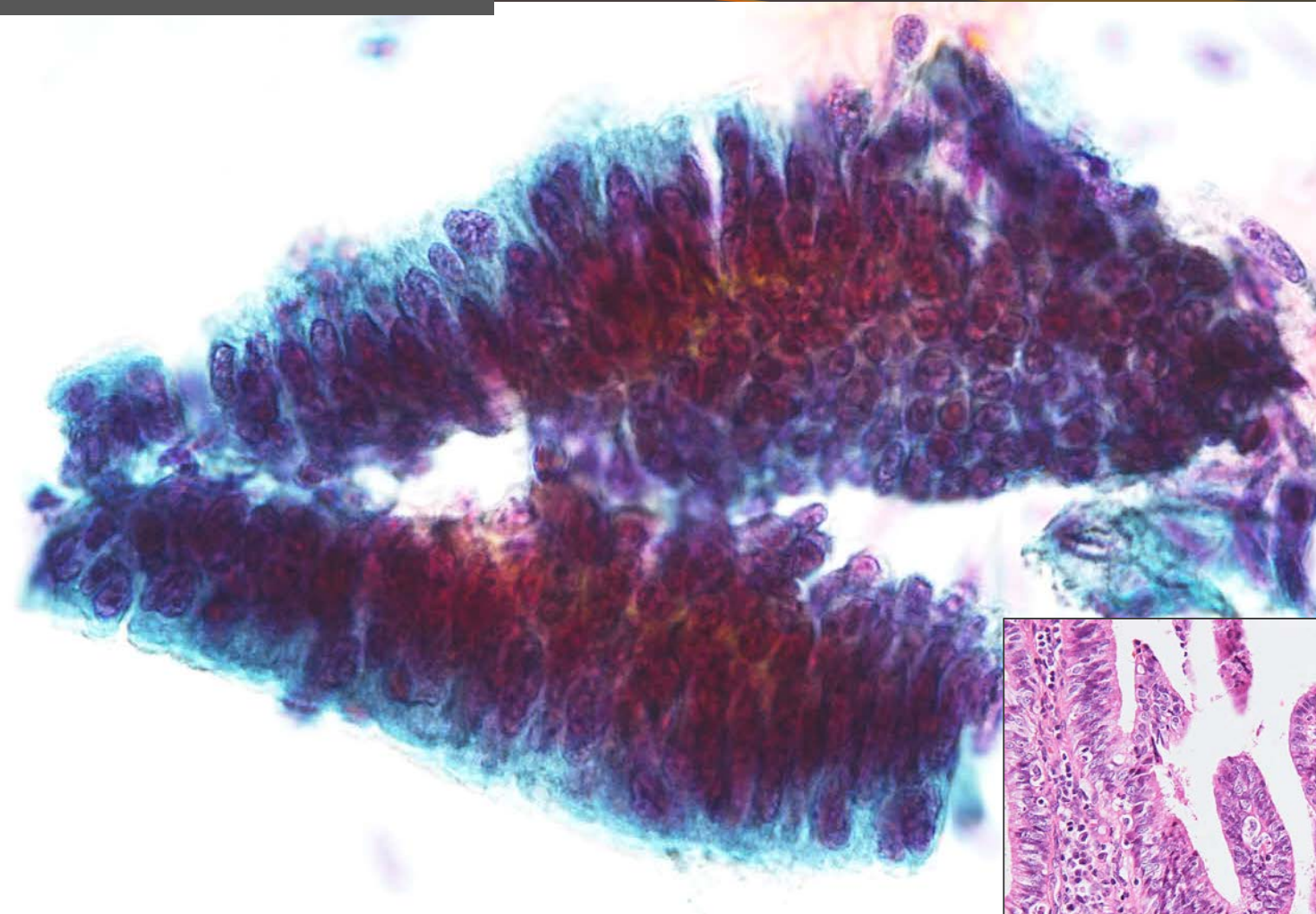
上皮内腺癌部



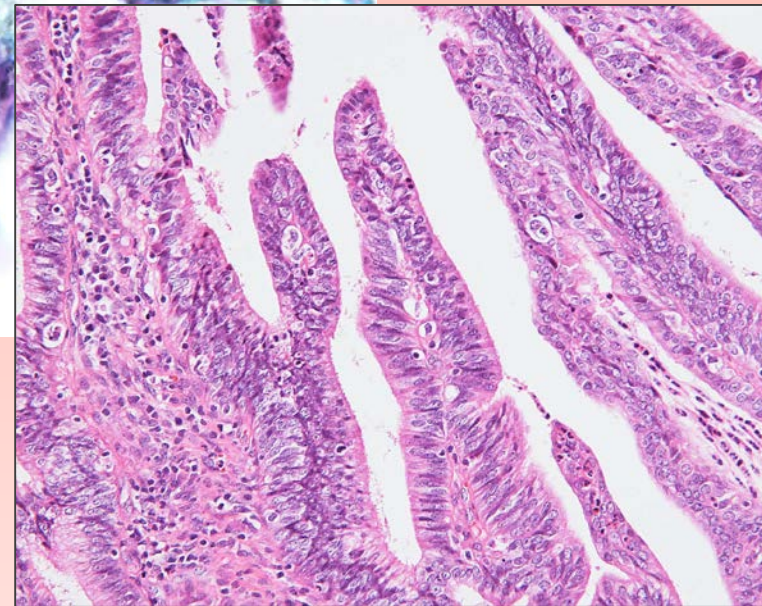
融合する腺管をよく反映している細胞像



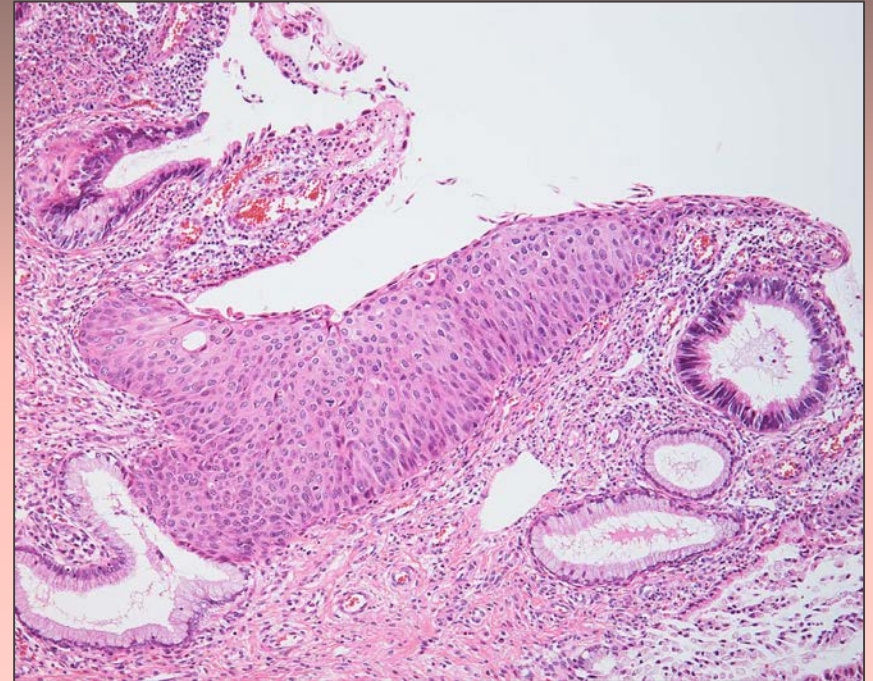
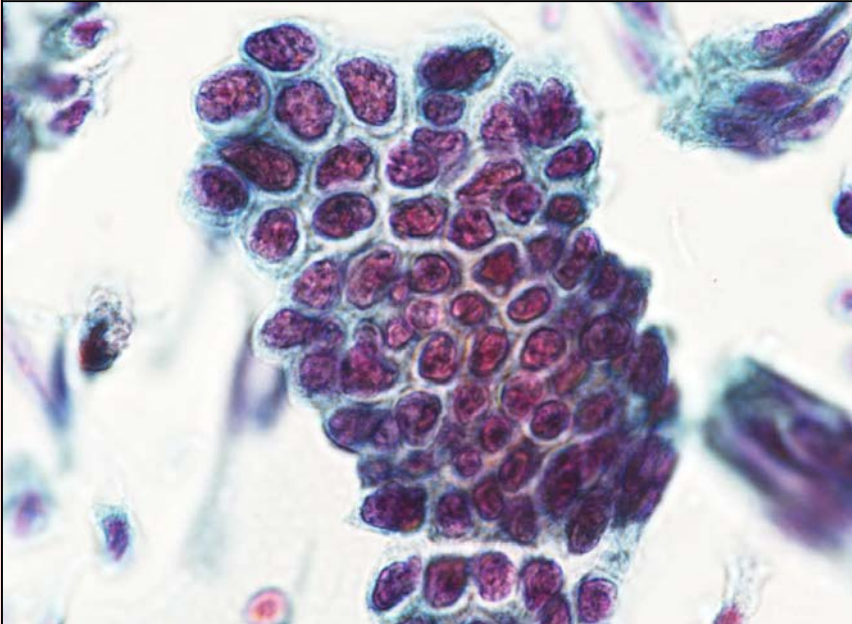
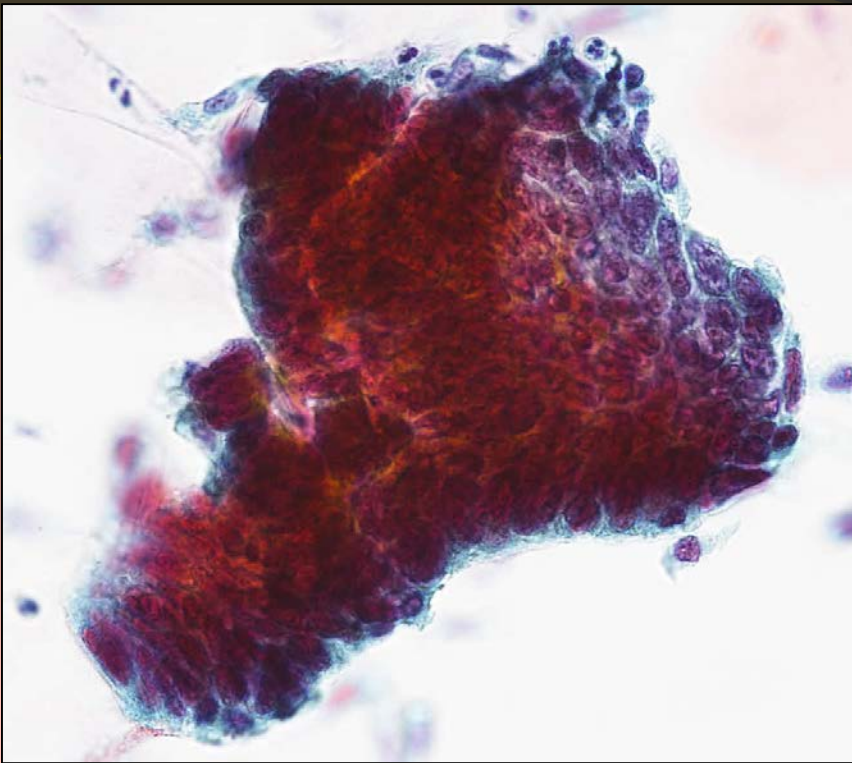
上皮内腺癌部



柵状に異常重積する長楕円形核



高度異形成部



今回の症例は高度異形成と推定できる細胞は少なかった。

Uterine cervical glandular lesions and related lesions (WHO:2014)

Adenocarcinoma in situ

Adenocarcinoma

Endocervical adenocarcinoma usual type

Mucinous carcinoma

Gastric type

Minimal deviation adenocarcinoma

Intestinal type

Signet-ring cell type

Villoglandular carcinoma

Endometrioid carcinoma

Clear cell carcinoma

Serous carcinoma

Mesonephric carcinoma

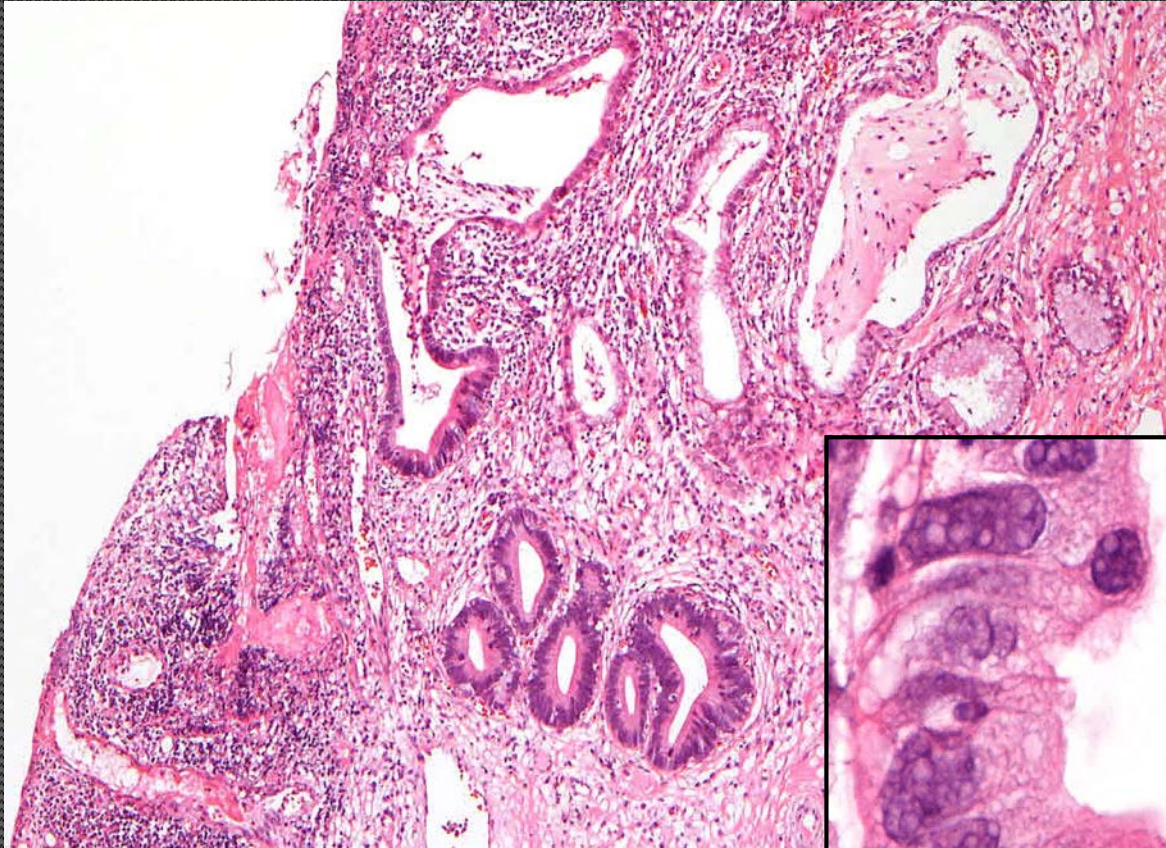
Adenocarcinoma admixed with neuroendocrine carcinoma

2014 新WHO 分類

! Glandular dysplasiaが削除されている

主なAISのタイプ

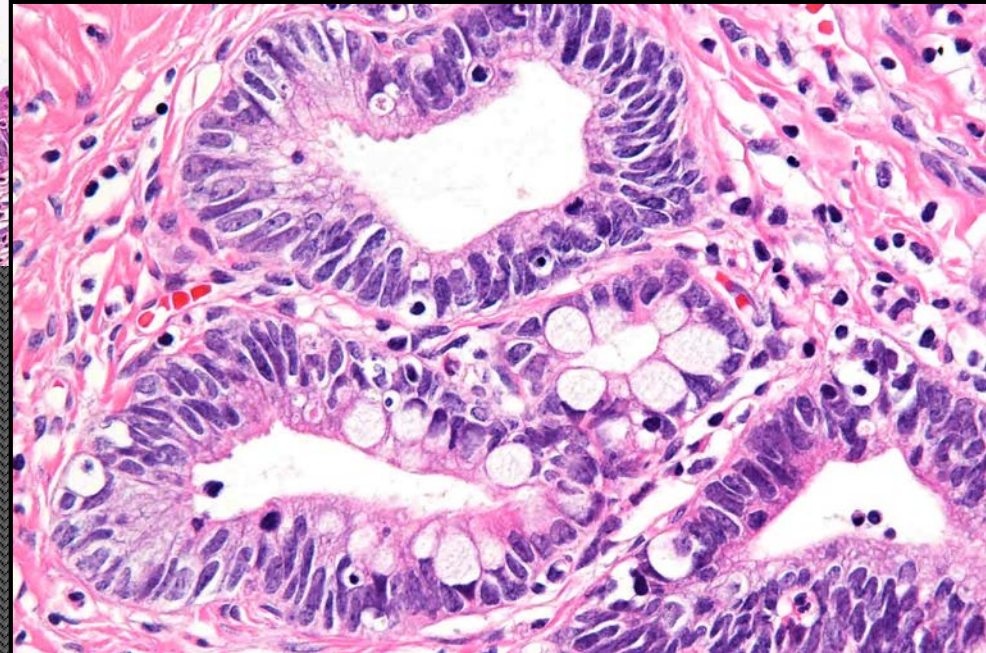
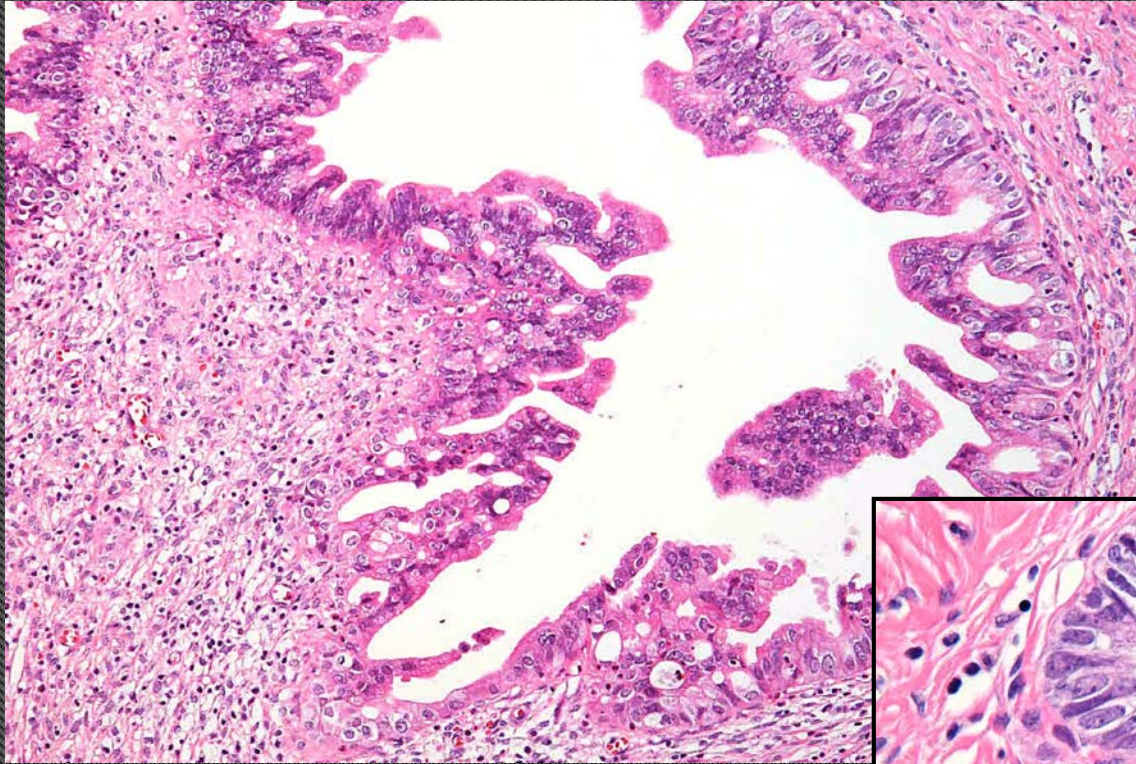
内頸部型



粘液産生細胞からなる

主なAISのタイプ

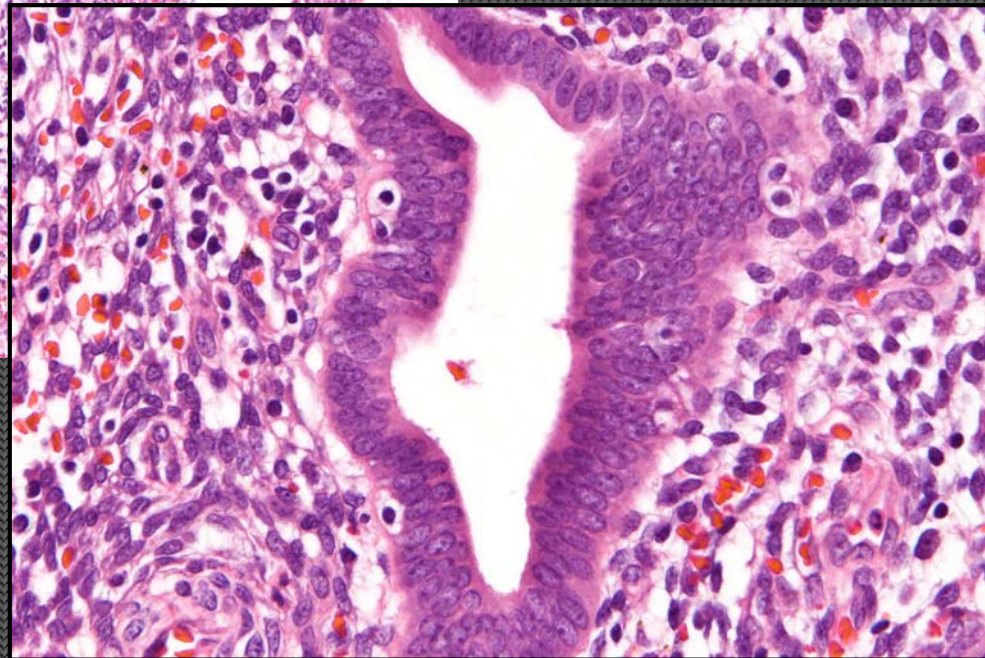
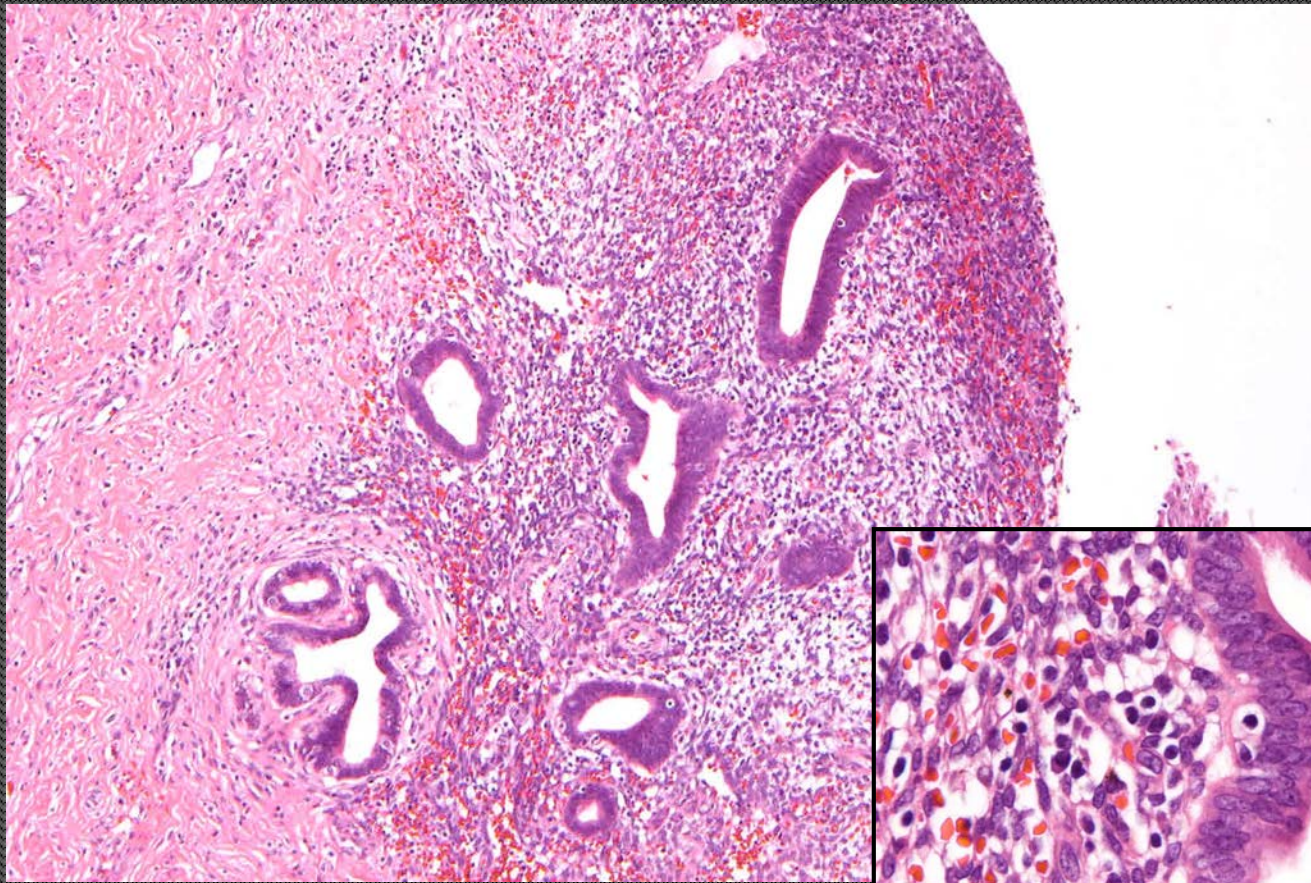
腸型



胚細胞様細胞からなる

主なAISのタイプ

類内膜型



内膜腺類似の細胞からなる

考察

- ・ 今回の症例は通常のAISの細胞像と言われる羽毛状集塊がほとんど見られなかった。
類内膜細胞型で粘液産生細胞でなかったことがその要因と思われる。
- ・ 高度異形成を推定できる細胞は非常に少なかった。
頸部の乳頭状隆起性病変であったため、AISの細胞が多く採取されたと考えられる。